

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(インドネシア)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 国際人材育成部門
特任講師(常勤) 橋本 智恵

2020 年度のインドネシアオンライン CIS (カップリング・インターンシップ)が、2 月 8 日-15 日の期間にインドネシアと日本を結んでオンラインで実施されました。本年度は新型コロナの影響のため、海外渡航不可となったことから、CIS 初のオンラインでの実施となりました。大阪大学の外国語学部 2 名、経済学部 1 名、工学研究科 1 名、インドネシア大の人文学部 2 名と工学部 2 名の計 8 名の学生が参加しました。本学学生は、6 月から日本で計 8 回の事前研修を受講し、本番に向け準備を行いました。CIS 開始後 2 日間は、日本・インドネシアの国紹介、日本企業の説明やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育、CIS 実習テーマの検討などを行いました。

2 月 10 日からの 2 日間は、セランにあるチレゴン・ファブリケーターズ(PTCF)社とオンラインでつなぎ企業実習を実施しました。PTCF は、IHI の子会社であり、「発電用ボイラの製造メーカー」です。実習としては、会社説明(組織、業

務内容)や、PTCF の幹部やリーダー及びスタッフへのインタビューを行いました。また、実習テーマ「PTCF におけるコミュニケーションの課題と対策」に関してインタビューで得た情報をもとに、連日協議を重ね、一生懸命に取り組みました。

最終日の 2 月 15 日には、学生は実習テーマの検討結果について発表しました。最終報告会には、インドネシア大学工学部の Winarto 教授、日本語学科の Filia 教授、PT.CF の吉田社長、斎藤シニアマネージャー、大阪大学の菅客員教授、橋本特任講師ら計 20 名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。吉田社長からは、「興味ある提案が多く出ている」とのコメントがありました。

学生は、「日系現地ものづくり企業」について理解する共に、実習テーマを通して「コミュニケーション力や異文化理解」の重要性を習得しており、大変価値のある活動でした。また必ずみんなで会おうと約束し CIS を終了しました。

